北辰会報

第18号
発行者　大阪府立北野高等学校
定時制課程同窓会北辰会
会　長　古城具祐
編集者　事務局長　前田直人
事務局　〒666-0262
兵庫県川辺郡猪名川町伏見台1-2-97
TEL･FAX　072-766-4170
kitanokoukou-hokusinkai@gaia.eonet.ne.jp
印　刷　タブレット
TEL 06-6676-2520　FAX 06-6676-2519
ＤＴＰ　株式会社グラフィカ
デザイン　TEL 06-6765-1210　FAX 06-6765-1211

「賛助金運動」にご支援を…

「閉課程記念北辰DVD」購入予約にご協力を!!

北辰会会長　古城（こじょう）　具祐（ともすけ）（18期）

平素は北辰会にご支援を頂きまして有難うございます。

昨年は東日本大震災、原発、台風などの災害で日本中に大きな悲しみ、苦しみを与えています。

しかし、日本中と世界中から暖かいご支援の手が差し伸べられました。北辰会も3県へささやかですが支援させて頂きました。一日も早くご遺族、被災者の皆様が立ち上がり、災害地の復興が進む事を祈っています。

今年は北辰会2014年総会の中間年です。巻末に「賛助金のお願いと北辰DVDの購入予約」が添付されています。北辰会は皆様の賛助金で支えられています。2年間の活動と総会を成功させる大事な資金です。皆様の絶大なご支援を賜りますようお願い致します。

また、事務局が中心になり、文集3部作を引き継ぐ「北野高校定時制72年と北辰会」のタイトルでDVDを作製中です。会員皆様の購入予約を募ります。ご期待に沿えるものが出来ると思っています。楽しみにお待ち下さい。

北辰会にも先輩の訃報、体調不良が多く届くようになっています。会員皆様におかれましてもお身体を大切にお元気で過ごされることを心よりお祈りいたします。

目　次

校長先生からの挨拶 …… 2
皆様からのたより …… 2
藤枝淑恵元校長夫人、萬戸（21期）、R（15期）、岡田（26期）、増野（14期）、中村（18期）、角谷（22期）
この人あり　水口（17期）、又川（24期）、竹本（29期） …… 7
新井さんの微笑　新井（12期） …… 12
同期会、同好会だより …… 13
事務局からの報告 …… 21
賛助金と北辰DVD予約購入のお願い …… 24

北野高校定時制閉課程記念DVD 目次（予定）

【タイトル】　北野高校定時制72年と北辰会
【サブタイトル】　燦然と輝く「希望の星」
【オープニング】　定時制開設から閉課程へ
【1部　北野高校定時制の歩み】
1章　思い出の校舎
2章　平成新校舎
3章　北辰記念室
4章　記念行事の思い出
5章　懐しい恩師（思い出の先生）
【2部　北辰会と仲間達】
1章　北辰会の歩み
2章　同期の仲間
3章　同好会の仲間

北辰のもと強い絆を

大阪府立北野高等学校長　楠野（くすの）　宣孝（のぶたか）

大阪府立北野高等学校北辰会の会員の皆様におかれましては、益々のご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年の4月に着任いたしました楠野でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。67期、5千余名という多くの卒業生を輩出してきた北野高校の定時制が閉課程となって3年が過ぎようとしています。私は以前に大阪府立四條畷高校の校長として勤めさせて頂きましたが、着任した年度末に四條畷高校定時制の最後の卒業式、閉課程式を行いました。定時制が閉課程になる寂しさというのは、それまで煌々としていた教室が真っ暗になっている光景とともに、私の中に実感として残っています。

北野高校に着任して「北辰会会員戦後五十年の軌跡」「ゆうべの星」「はるけき流れ」の3冊の文集を拝読いたしました。そこからは母校に対する熱い思い、その誇りと絆の強さがしっかりと伝わってまいりました。年代も住んでいるところも様々である卒業生が、北極星を眺めては北野高校に思いを馳せている様子が目に浮かんでくるようでした。

北野高校定時制の卒業生の方が、卒業証明書等の受け取りや定時制の記念室である北辰記念室の見学などで来校されます。その時に記念碑に見入っている姿も拝見いたします。

また、昨年度に北野高校のホームページに北辰会のページを設けさせて頂きましたが、多くの方にご覧になって頂きたいと思います。皆様の母校、北野高校とはいつまでも繋がっています。

これからも北辰会と学校との絆を、力を合わせてしっかりと守って参りたいと存じます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

皆様からのたより

会報を読んで

元校長奥様　藤枝（ふじえだ）　淑恵（としえ）

すがすがしい季節になりました。

この度は「北辰会報」をお届け戴きまして本当に有り難うございました。

封筒を開いてページをめくってびっくりいたしました。

この様な大きなスペースを作って頂き　恐縮の言葉しかございません。主人が元気でしたらどんな顔で何と言ったことでしょう。今は見せてあげましたが何の言葉も返って来ません。本当に残念でございます。

学校が好きで生徒さんが大好きで長い夏休みになりますと朝から日がくれるまでテニスコートにいて生徒さんと一緒にボールを追っていました。私も仲間に入れて頂き楽しい時間でした。

そして我が家にもたくさんの卒業生が来て下さり遅くまで飲んで阪急電車がなくなると　私が車でお家まで送って回って帰りますと　グウグウ寝ていました。今となってはなつかしい思い出になりました。

戴きました会報は長い教師生活の中で最高の贈り物を頂いた気持ちでございます。

本当に有難うございました。

同封のものはささやかではございますが会報の何かに使って頂ければ幸いでございます。

今後のご発展心よりお祈り申し上げます。

2011.5.2

「はるけき流れ」に呆然としました

21期　萬戸（まんと）　唯利（ただとし）

皆様の素晴らしい人生観、歴史を知り、しばらく呆然としていました。

そうだったのか、あの方にはこんな人生、悩み、夢があったのかとただ圧倒されて一気に読みました。そして17歳の少年にタイムスリップしました。

この感激はなんだろうとあらためて考えました。

ひとつは、いずれの文章も共通の思い出をもつ人が共通の時代に生きた人に対する告白文であることだと気がつきました。

「聞いてください。わたしはこんな人生を生きてきました」という筆者の告白なのでしょう。

その告白には、てらい、おごり、うそはなく、人生に対する自信と他人に他する思いやりがあふれています。行間にその人の素晴らしい人生観がにじみ出ています。わたしはこの自信と思いやりに満ちた人生観に共感します。筆者の告白をそのまま、自分の人生に重ねることができるからです。同時に告白する人の人生に「おめでとう。君は素晴らしい」の賛辞を贈りたくなります。

もうひとつは人生に対する前向きな姿勢です。告白だけでは人をひきつけることはできません。どなたも、どんな環境、時代にでも対応できる力と心の強さをもっておられます。功なり名を遂げた人も、市井の片隅に生きてきた人もすべての方に共通することは人生に積極的に向き合い逃げない姿が見えます。

戦前派の皆様にも60期代の皆様にもそれはまったく同じです。日本は敗戦、バブル崩壊、阪神大震災にみまわれてきましたが、そのたびに不死鳥のようによみがえりました。このたびの東北大震災にもめげることなく復活します。

私たちはどんな困難な時代でも力強く生きてきました。それができる仲間が身近に、北辰会の皆様がいるとあらためて教えられました。

出張先で級友の活躍も聞きました。阪神大震災への思いやりを忘れず竹ろうそくを贈る人、赤穂城のガイドなどで町おこしをされるかたなどを知りました。北辰会の皆様は最高です。皆様の仲間であることに誇りを持ちます。

お世話になりながら、級友の皆様、北辰会に何一つしてこなかったことを本当に申し訳なく、お詫び申し上げます。

健康に恵まれた今、少しでも北辰会のお手伝いができればと考えています。

素晴らしい文集を送付いただき感謝します。ありがとうございました。

但馬農民の子の血が騒ぎました

～17期Mさんへ～

15期　Rさんから

昨日は突然お電話を致し、失礼しました。但馬の土に根ざした有名な農民人形の作家、渡辺うめ氏の展覧会を是非見ていただきたく面識もないお方に、お願いした次第です。

北辰会「はるけき流れ」にお書きになった文章を拝読し但馬農民の子の血が騒ぎ何度かお手紙を書きかけたことがあるのでお目にかかった事もないのに親しく思って……。

一度目は牛に関するご記述に対してです。私の拙い作文「牛飼物語」をここに同封いたしますので見て下さればわかりますが、朝草刈や牛市の話にとても共感しました。「牛飼物語」は俳人大沢氏の「せり落ちし牛牽かれゆく時雨空」に触発されて書いたものです。

次は親のいつもの言葉が「勉強せえ」ではなく「仕事をせえ」だったという所。仕事をよくする子が村の人から褒められ「あのお子さんを見ろ」と親は手本にさせていました。今の子供を見ていつもその事を思い出していたのであのくだりを読んで「そうだった。そうだった」と手を拍つ思いでした。

そして就職のこと。会社の名前はかいてありませんが三菱電機とすぐわかりました。そして、とても優秀であられたのだなあ、と思いま

した。当時私の学校からも選りすぐった優秀な子が二人、三菱を受けましたが二人とも合格できませんでした。私と同学年のその二人以外、その前にも後にも三菱に入った人は居らず三年後と五年後にうちの弟が神戸の川崎重工業の養成工になりましたが、三菱電機よりは易しかったのだと思います。それでも地元の高校よりは難しいと言われ、親は鼻を高くして(貧しさの言い訳か、高校へ進学させてやれなかった後ろめたさをごまかして居たのか)いて、周囲からも上の弟は秀才と言われていました。

それゆえ、うちの学校なんかには手の届かぬ三菱とゆうことで、後日、北野で同学年に三菱の人が居ましたが、仰ぎ見る感じでなかなか話ができませんでした。卒業後同窓会なんかで繰り返しいる内に遠慮がなくなり、「あんたら各地のエリートの集りやから、私なんか見下げていたんでしょ」「そんな事ないって。皆、地方出やからシャイやったんや。きっと気安く話さなかったのはそのせいや。なあ、おい、そうやろ」「そやそやほんまやで」などと言い合いするのですが、通学の電車、特に下校は十三を9時10分でいつも一緒だったのに殆ど話した記憶がありません。その三菱に同じ但馬出身の北辰生が居たとは……。

「はるけき流れ」を読んで驚きと懐かしさで感慨深いものがありました。北辰会文集がもたらした新たな邂逅とでも言いますか……。何十年を経て、遠くなりゆくふるさとに回帰する想いです。「渡辺うめ農民人形展」の感想などお聞かせいただければ嬉しゅうございます。

末筆乍ご自愛祈ります。

渡辺うめ人形集「あぜみちの詩(うた)」北星社

＊編集部　この手紙はＭさんへの「私信」ですが発信者のＲさんの了解を得て掲載致しました。
遥か時を超えて流れる北辰の水脈のひと雫に触れた気がし、Ｍさん、Ｒさんの想いにも応えたいと思いました。

被災地訪問が復興の力に
～2011年福島平和バスツアー～

26期　岡田(おかだ)　美乃利(みのり)

富山市の「水橋九条の会」(略称･「会」)では、2006年結成以来、毎年行っている1泊2日の平和バスツアーを6年目の今年は大震災の被災地・福島へ11月26日、27日に行こうと決めました。

ここで一言「会」の活動について触れさせていただきます。

水橋地域は6000世帯で、そこへ毎月発行の「水橋九条の会」ニュースを約10日前後かけて200名ほどの人が手配りで届けています。そして、毎年結成記念集会を富山市の水橋の施設で300名近くが集まって記念集会を行っています。私はそこの事務局長をしています。

福島訪問だけでも「風評被害克服」に

さて福島への旅行ですが、ホテルは事前に予約をし、現地での案内を福島農民連にお願いしたところ事務局長さんに了解して頂きました。

「福島へ行くのは12名だが、ほとんど60代～70代でボランティアとしての肉体労働はまるっきりダメなのです。その上、時間を割いてガイドまでお願いして申し訳ありません」と言う私に佐々木さんは「いいえ、そうではありません。みなさんがホテルなどに泊まっていただいてお金を落としていただくことが、私たちが風評被害などを克服していく力にもなり元気になります。本当にありがとうございます」と言われました。これは私達には救いでした。

レンタカーのマイクロバスで北陸道～磐越道を走ること6時間、最初に訪れたのは福島の大内宿。茅ぶきのお土産物屋や食堂などが道の両サイドに約60軒並んでいる昔懐かしい町並みだ、とガイドブックとネットでの予備知識を得ていました。実際散策していると小さい子供の頃を思い出し心が和みました。箸の代わりに長いネギでそばをいただき、お酒も本当、美味しかったですね。大内宿、人里離れた海抜700mで観光客が年間100万人訪問する観光地だそうで、26日もさすが人々々でした。

昔、宿場として機能していたとき、平屋建て

しか許されなかったためだそうです。

宿は磐梯熱海の『かんぽの宿・郡山』。ホテル内は浴衣でOK。大浴場でゆったりと温泉に浸かり、気分爽快。夕食も会津の山の幸があり、本当、美味しかったです。

27日は朝、8時ホテルを出発。ガイドをしていただける30歳過ぎの青年福島農民連事務局次長さんとは福島西インターで合流。

悲鳴、怒り、不安に胸の痛み

被災地の相馬市と南相馬市を訪れました。3.11より8ヶ月が過ぎているのに、ガレキの集積場は下車して見たところでは、まだ船が1箇所で10隻以上も放置されたまま。まるで船が悲鳴を上げているようでした。また、1階は津波で突き破られたままの日通の倉庫、3～4㎞先の海岸まで何も残っていない農地跡や住宅地跡。胸が締め付けられました。

津波で倉庫が突き破られた前で参加者･南相馬市
右端　岡田さん

飯館村へも行きましたが、バスからの下車は禁止、車窓から眺めるだけでしたが、人影はなし、車だけが、たまに行き交うだけの村。人は見ませんでしたが、まるで「早く村へ帰りたい」と村人の多くの方が、命の叫びを大声で発しているかのようでした。

胸にジーンときました。誰であっても「故郷を捨てて他所へ行って」など口が裂けても言えないことですが、これが現実です。

あらためて、原発神話が「お早う」のあいさつも会話も一切出来ない村に、人との交流、家族の団欒を奪い、子供たちが外で遊ぶことを奪ってしまった、人の尊厳を根本から、文字通り、根こそぎ否定した現実を目の当たりにして、やはりいまの日本の方向を切り替えないと日本はダメになるのではと思いました。

東日本大震災の上に、日本の西の方で、例えば浜岡原発や福井県の原発で何かがあれば、日本は世界に相手にされないどころか、日本では生きていけないのではという、架空の心配でなく、現実の心配としてずしりと胸に響きました。

ガイドの中で県内の全小学生にガラスバッジ（線量計）をつけ放射線を測定する、測定といっても素人では測定値を出すことはできず、一定期間過ぎると、専門の機関で結果をだすことが出来る。寝るとき、遊ぶとき、入浴のときなどどうするのか、最初は1ヶ月のバッジ、現在は3ヶ月のバッジ、測定しなければ生活できない、何て大変なことだと思いました。

さらに、いたる所で見かけた屋根にブルーシートの家々、屋根や瓦の修理工事のお願いをしても修理依頼が沢山あって順番待ちだとか、雪の到来前に間に会うのだろうか、と思いました。

福島が近くになった…。

最後に水橋で、いろんな方からお寄せいただいた物資を、富山から車に載せて持ってきた、毛布、衣類、米、そして家族で折られた千羽鶴など届けましたら、事務局長さんは「ありがとうございます。みなさんからお届け戴いた品物は、仮設住宅へ届けます」と、感謝の言葉。

1泊2日の福島への旅行でしたが、本当にいろいろ考えさえられた有意義な旅でした。

「無言館」を訪ねて

14期　**増野（ますの）　喬（たかし）**

７月に長野県上田市の戦没画学生慰霊美術館「無言館」を訪れた。無言館は塩田市と呼ばれる浅間山を望む、丘の上に建てられている。ヨーロッパの僧院を思わせるコンクリート打放しのシンプルなデザインで、上空から見ると十字架の形をしている。

中に入ると教会のようで戦没画学生の絵を飾

るにふさわしい造りになっている。美術館には太平洋戦争で志半ばで戦没した画学生三十余名、三百余点の遺作、遺品がてんじされている。

館主の窪島誠一郎氏（父親は作家の水上勉）が、美術学校の仲間を戦争で失った画家・野見山暁治と共に、日本各地の遺族を訪ね、平成七年から二年間にかけて遺作、遺品を蒐めたものである。窪島は野見山の亡き画友への鎮魂録「祈りの画集」に打たれ、無言館の建設を思い立った。窪島の父母の背後にあった戦争を一顧だにしなかった反省から、戦没画学生の遺作を蒐めることになった。

絵は画学生の父母、妻と子供、姉妹などが多い。百号を超える作品もあり、絵の中には将来大きな画家になることを予感されるものもあった。作成半ばの妻のヌードもあり、必ず生きて帰り、残りを描き上げると約束したが願いは叶わなかった。

館内の中央にはガラスのショーケースが置かれ、使い込んだ絵筆、スケッチブック、パレット、などと共に戦地からの便りもあった。肉親への氣遣いや、子供からのカナ雑じりの手紙、そして生きて帰り絵を描きたい、と強い思いが記されたものもある。

館内は灯りを抑えた中で、作品や遺品を観ている人達は、口数少なく、涙を抑えきれない若い人もいた。絵には出身地、出身美学校、戦死した年月、そして戦死した年齢が記されている。享年二十歳から三十歳前後、戦死した年月には、昭和二十年七月、終戦のわずか一ヶ月前に亡くなった人もいた。戦争は彼等の未来と才能を奪ってしまった。

太平洋戦争では民間人も含めて約四百万人の人達が亡くなっている。戦争は多くの人々に犠牲を強いた。ひるがえって、今私達は絵を自由に描け、作品を制作出来る。なんと喜ばしい事か。戦争を知らない人が増え、戦争に加担する動きがちらほらと見える昨今の風潮を憂う。今に生きる私達が、自由に描け、存分に表現出来る喜びを大切にすべき、と無言館は教えてくれている。戦没画学生達の遺作品に触れ、平和の有り難さを感じた旅でした。

平成二十二年七月二十八日

「東京北辰会だより」4号より転載

「大阪府立北野夜間中学」の校票

18期　中村（なかむら）　明人（あきひと）

前略、北辰会報をご送付くださり有難うございました。

返事が遅れ申し訳ありません。往時を思い出し感無量になりました。その思い出の中に、受験願書を提出に行った日のことを書きます。

初めて学校を訪れたとき、正門の門柱の片方に木札で「大阪府立北野高等学校」もう一方に大理石で「大阪府立北野夜間中学」の校票がありましたことを思い出しました。

時はすでに、昭和30年代の半ばです。北野夜間中学は戦前の歴史の彼方に消えているにも関わらず厳然とその名は校門に掲げられておりました。

後日、校舎解体のおり、当時の藤井校長に「大阪府立北野夜間中学」の校票は同窓会の発意により、林校長の賛意を得て掲げたとのお手紙をいただきました。藤井先生は北野定時制の主事もなさっておられました。林校長の定時制課程への暖

かい理解に感激するとともに、夜間中学に学んだ諸先輩の愛校心と並ならぬ母校にたいする矜持をみる思いがしました。その校票、現存すれば大切に北辰会で保存してください。

拙文お許しください。

草々

やさしい目許の先生
～中沢先生をしのぶ～

22期　角谷（つのや）　友恵（ともえ）（旧姓 岩崎）

訃報をお聞きして大変驚きました。

以下は先生との思い出の一コマです。

ワァ―桂小金治（落語家）にそっくりと思ったのが中沢先生と出合った第一印象でした。

体育の時間はきびきびと又笑うと目尻が下ったなんともやさしい目許が忘れられません。

三・四年は担任でした。

文化祭で火のダンスをされた時はびっくり衝撃的でした。

修学旅行も楽しい思い出として残っています。

卒業してからも年賀状は途切れることなく今年まで続きました。

先生が山や海へご家族で行かれたと報告いただき、いつまでもお元気でおられることゝ思っていました。

クラス会でも先生は若々しくおられたので、どちらが先生か生徒かと思われる我々も年となりました。

先生より先に逝った生徒もおりました。

先生皆でお参りに行きます。

ご冥福をお祈りいたします。

中沢先生を囲んで

この人あり

老いのとき　世人のために身を尽くす
～尼崎経営者協会専任講師を11年～

17期　水口（みずぐち）　健三（けんぞう）

平成元年（当時51歳）突然のご下命により長年勤務していた工作部門から研修部門へ異動した。以来、社員の教育・研修を担当、関連会社への出向転籍を経て平成12年4月15日（同63歳）会社生活にピリオド。ご縁あって翌年9月から尼崎経営者協会（以下　尼経協）専任講師として監督者研修会を担当し11年目を迎えている。

当研修会は尼経協傘下企業の第一線リーダー（呼称の如何を問わず、部下を直接指揮する管理・監督の立場にある者）を対象に、昭和56年発足したもので、本年で31年目になる。初年から20年目までは前任の講師（故人）がご担当、当講師の熱意に加え各社幹部と事務局の努力が相まって継続している。修了者は通算一千名を超えている。

研修内容は、第一線リーダーが身につけるべき知識、スキル等の習得を目指し、講義、ビデオセミナー、グループ討議、各種手法の研究、事業所見学等を実施。1泊2日研修を含め年間12日間の日程で行っている。以下に紙幅をお借りして年初の講義概要をご参考までに記述します。

１．仕事の管理ができること

管理監督者にとって最重要使命は、担当する仕事を決められた品質、納期及びコストで生産を達成することです。そのためには科学的、計画的に仕事を進めることです。即ち、計画、指令、統制さらには調整のマネジメントサイクル

を回すことにより、職場からムダ、ムラ、ムリを取り除き正・早・安・楽を実現することです

2．部下を育成できること

部下の職務遂行能力は直接的に生産性に結びつきます。部下一人ひとりも自己の成長を願っています。部下の個人能力向上は職場の総合力向上にも資するものです。日頃から部下の育成に注力し技能・技術の伝承を積極的に行い、部下がその継承に専念できるようにしたいものです。

3．仕事を改善できること

現在は創意工夫・革新の時代とも言われるように各企業においても事業の永続的発展のために創造力発揮が強く求められています。管理監督者は職務遂行上で発生する諸問題に対処するとき創意工夫が必要になります。アイデアマンとしての能力向上は競争を勝ち抜く力になります。

4．よい人間関係を築くことができること

発展する職場は良好な人間関係が基盤です。管理監督者にとって部下は最重要な経営資源です。組織を構成する一人ひとりが役割を分担し組織目標、目的に沿って努力していますが、人間関係が望ましくない場合は良い成果に結びつきません。各人が強い仲間意識を持ち切磋琢磨できるよう高いレベルの【注】モラールを維持、発展できるよう努力して欲しい。

5．安全衛生管理ができること

労働安全衛生法の改訂に伴い「職場における危険性・有害性の調査とその結果に基づき講じる措置について」の項目が追加されました。今後ますます快適な職場環境の形成が要求される中、組織の第一線を守る立場にとって安全衛生に対する配慮が重要になってきます。働く場において災害を被ることは最大の不幸です。このことを強く意識し安全衛生活動にも注力して欲しい。

私の当研修会に対するコンセプトは、「現場労務の担い手」を育成することです。その機軸は二律背反的ですが「冷静な頭脳と温かい心情」を備えたリーダーに成長して欲しいと念願している。普段は口数の多いほうではないが、講義となると饒舌になる。アウトプットを求めようと思えばインプットに努力が必要と感じ、毎日の新聞を丹念に読み、月2～3冊の関係図書を精読して講義に備えている。時流遅れの講義にならないためにも。

受講対象者は、第二次産業業種からが8割以上と多いが、第三次産業業種（医療福祉関係他）からの参加者も増えつつあり、さらに、なでしこジャパンに倣い女性の参加者も歓迎している。

尼経協における担当領域は別途、新任課長研修、毎春の新入社員研修担当スタッフ養成講座や市内高校卒業者のうち就職内定者を対象に「社会人としての心構え」と題して3時間の研修会等も行っている。

上述のように75歳の老境にあって、人前で講師面を持って対峙しているが、秋の日はつるべ落としの如く、声をはじめ表情、立ち居振る舞いなどに見苦しさが出てきたのではないかと自問自答することがある。メラビアンの法則によると、説得技術にはノンバーバルこそ重要視されるべきことを思えば、そろそろ後継者にバトンを託す時機が近づいていることを自覚する。しかし、何時も次回の研修会の資料に目が向いている。この老いのときを、小さな仕事に過ぎないが、世のため人のために尽くすことができることに感謝しながらペンを置きます。

最後までお目通しいただき感謝申し上げます。有難うございました。

以上

【注】モラール(morale)の意味は (1)やる気。士気。 (2)集団の共通目標の実現のために積極的に努力しようとする態度。士気。勤労意欲。作業意欲。（編集部）

演出から俳優へ新たな出発
～演劇生活、半世紀～

24期 又川（またかわ） 邦義（くにより）

25歳の新入生「演劇部」へ

私は今も尚、あの当時のあの時の生徒達の言動を信じる。その後、人生の厚い壁にたじろぎ、つまずき、そして志が潰えたにしても…、あの

何にも換え難い、ピュアな瞳と、社会のゆがみや不正に、NOとその意志を示した精神に、私は今も心がふるえる。北野高校と言う時、あの当時の先生、そして学友にそれが在った！だから私は今も、自分がその生徒のひとりであった事に誇りを憶える。思い出はとかくセピア色でもって示されるが、私の思い出はあの当時そのまま原色でもって息づいている。

さて、私がこの栄光ある学校の生徒になったのは、あと1ヶ月で25才を迎えようとしているときであった。

入学して早速行動に移したのがクラブ活動であり、部室の看板？表札？に「映画・演劇クラブ」なるものを見つけたときだ。北野入学前に「大阪シナリオ学校」夜間10期生として学んだ事もある故。部室の扉を開けて「映画やってるんですかぁ」と声を掛けた。先輩部員のひとりが「映画」やってないんです。「演劇」だけなんです。当時、演劇についてはほとんど何も知らない私は、「では…！」と辞そうとすると、「そう云わずに是非！」その上、「確か妹さんが、自治会の書記をしておられるでしょ？」8才年下の妹までひきあいにされ、強引に引っ張り込まれた。これが現代も未だ続いている「演劇」なるものとの出会いであった。以来、半世紀！

早速、クラブ活動が始まった。演劇については「へぇー」と感心する事の多かった私だったが、こと映画や小説・音楽・美術について話が及ぶと雄弁になり、先輩達も年齢も含め一目置かざるをえない、ややこしい後輩になって居た。やがて、秋の文化祭の「演し物」を決める段になり、先輩達の推す「夕鶴」と私の推す「海の見える離れ」が残り、投票の結果同票となり、部長の1票が、私の推す作品に投じられ。此処に「海の見える離れ」が決定した。作者は当時、今宮高校の先生であられた、日比野諦観先生で、高校演劇の為に次々と問題作を発表されていた(のちに知るのだが、お寺の住職さんでもあったと記憶する)さて、演出を誰が…？と云う事になり、この作を推したお前がやれと担ぎ上げられ、演出の何たるかも判らぬ私は大いに弱った。早速、古本屋に演出論や、演出に関する数冊を探し求め、稽古初めに机の片側にどんと積み上げて、「えんしゅつ」をした。これがその後50年、働きながら続けてきた、今日、演出家と言われる第1歩となった。

劇団「わだち」結成へ

いま思うと演出などとは、ほど遠く、脚本をただなぞっているだけの「演出」で恥ずかしく身の細る思いがする。又、この時の演劇部顧問は奥村先生で、2年目には寝屋川高校に転任され、私が高校卒業する年に先輩達数人と劇団を興され、そこに私も参加し、脚本や演出を分かち合う仲に成り、先生から多くの事を教わる恩師のひとりとなった。

さて50年、自身の演出作品を正確に数えた事はないが、ざっと60作～70作位になるであろうか？これは勿論、再演を含めてのことで、年に春、秋2回公演として100作品だが、年に1回の時もあるし、と云った按配でその中から幾つかの思い出の作品を記してみたい。勿論在学中、2年生の時には学校と上演を巡って対立？する事になった「轍（わだち）」、のちに劇団を起ち上げた劇団名「わだち」もこの作品に由来するし、3年生では「乞食（かんじき）の歌」そして４年生では、「僕らが歌をうたうとき」を上演、大阪府下の高校演劇祭で優勝し、全国大会にと言われながら卒業と重なって断念する事になり、それが卒業と共に劇団結成と云う流れになった事は論を待たない。

因みに、末っ子の妹が入学したとき、そして三人共演劇部に在籍、又川三兄妹とのちの「だんご3兄妹」のごとく流行された事を付記しておく。お陰で、今もそれぞれの子供達も羨む兄妹仲睦まじく、それは北野高校在学のお陰と感謝する次第。話しが少しそれたが、忘れられない作品の一つには、ルナール作「にんじん」があ

又川3兄妹

る。訳者が山田球樹氏で当時すでに鬼籍に入って居られ、上演許可願いに困り、この芝居をすでに上演された在阪三つの劇団に問い合わせてみたが、上演許可願いが曖昧で要領を得られず、止むなく出版社に問い合わせると、「翻訳者協会」訪ねられよ、連絡すると「文化庁」訪ねてみてください！と、「文化庁」の応えは、「翻訳者協会」にと！なんじゃコレは･･･先輩方が今ひとつ曖昧だったのはムリからぬ事で俗に言う「タライ回し」の無責任さではないか！残るひとつは先輩劇団のおひとりが東京に在る劇団民芸に問い合わせて見られたらと云う事で、民芸の制作部に居られた片谷大陸氏に連絡を取る。

さすが民芸、片谷(かたや)氏仰有るには、球樹(たまき)氏には御子息が居られその方に連絡してみられてはと丁寧に住所、TELを教えて下さった。ご子息、山田　爵(じゃく)氏（その当時　東大仏文研究室の助教授）は、快く、上演を承諾して下さった。後にこの爵氏は、かの文豪森鴎外のお嬢さんと球樹さんとのご子息で、鴎外の孫に当たる方だった。嬉しかった。物事はとことん尽くすべきだと大いに学んだ。

紙数も有り、今ひとつ短く記すと「太陽の子」灰谷健次郎作だ。氏とも上演権を巡り、直接お会いして話す機会を得たが、高圧的な方で「兎の眼」とか、世評の高い方なのに……少々ガッカリした。灰谷ファンには叱られるかも知れないが私には……。丁度中山義秀の作品に「厚物咲(あつものざき)」と題する小説が在って、作中の主人公が吝嗇家で、世間では鼻持ちならぬ男なのに、植木のぼたんを造らすと、それは耳目を疑う素晴らしい花を造ると言う物語で、作者と作品は同一でなく別物だと言う事が表してあり、その事を思い出した。

市民参加型演劇へ

さて、最後に市民参加型の演劇行動をひとつ。1989年から1998年の10年間、豊中市主催による「豊中人権平和フォーラム」として、脚本・演出の依頼を受け、毎年7月に公報で公募し、11月に市の公共ホールにて上演（1年目のみ1回きりの上演だったが、翌年から2～4とステージ数は増加）約3ケ月半の稽古期間だ。初年度は、ドイツの児童文学者ミヒヤエル・エンデの「モモ」3回、サムイル・マルシャークの「森は生きている」3回、レイ・ブラッドベリの「華氏451」1回（本邦初演、著者から代理人を通してこの事業のみ上演許可　―市民有志の翻訳―）

エレナ・ポーター“少女パレアナ”より「パレアナのうた」1回、ハンス・ペーター・リヒターの「あのころはフリードッヒがいた」1回、この事業最終年になった1998年は、我が敬愛する天才漫画家（北野高校卒）手塚治虫先生の「陽だまりの樹」1回を上演した事、「モモ」と「森は生きている」の各3回は、市民の再演要望が高く、取り上げた。何しろ、この10作品には、舞台美術として板坂晋治氏、音響効果に作本秀信氏、照明に福井邦夫氏と、それぞれ、その道のプロが手を貸して下さったことが大きな要因。市も又、惜しみなく、我々の希望を叶えるべく努力して頂いた。此の10年のこの事業は、私の演劇生活に於ける、至福の時だったかも知れない。何となれば、ホールを借りたり、チケットを売ったり、芝居上演の為のチラシ、パンフの制作等、市がそのすべてを代行してくれ入場料も無料公演だった。それがどれだけ時間的、経済的にゆとりをもたらすことか。創造活動に集中出来る喜び！一方、参加者は3才から75才位までの老若男女が、一生に一度舞台に立ってみたいという希望を叶えるためオーデーションをせず（スタッフ希望者は除く）すべての方々に舞台に立って頂いた。毎年カーテンコールでは、満員の観客と参加者の涙の交流とで、常に私も涙していた。後に、各地方自治体でも、この催しに刺激され市民参加型の演劇普及に先駆者的役割を果たしたと思うと共に、演劇を志す人々の据野を拡げたと自負している。又、この催し「パレアナのうた」では、北野定18期生の森井久美子さん（ゆうべの星103頁寄稿在り）が参加され主役のひとりを演じられたし、同期の宝田やすひろ君、石川光子（旧姓柳田）さん、27期の青木田津代（旧姓清水）さん（ゆうべの星216頁寄稿あり）も何度か参加され、旧交を暖められたことを付記しておきます。たゞこの事業、惜しむらくは市の財政逼迫により、10年で幕が引かれた事だ。常々、私は“市民の皆さんがねばり強く賢くなられる事

を”と事ある毎に語りかけてはいたが果たせなかった。因みに、この国の文化事業の予算は、フランスの予算と比して82対1の割合であり、如何に文化芸術に携わる人達の経済状態が大変か判ろうと言うものだ。この予算の比は、現在もさしたる比ではないと思う。

75歳から俳優へ

このように書き出すと、次から次へと限りがない。演出生活50年。北は北海道から南は九州まで、沢山のすぐれた演劇人に出合ったし、尊敬する演劇人としては、いずれも故人となられたが、演出家として千田是也先生（ひそかに演出上の師として。）又　劇作では、井上ひさしさん（昨年、韓国馬山国際演劇祭に氏の「父と暮せば」を上演）氏は芝居を上演する上で心がけてほしい事として、「難しい事を易しく、やさしい事を奥深く、奥ふかい事を愉しく」と申しておられ、私は常々その事を念頭に置き乍ら、一生懸命心を尽くしている。近年、演出から俳優を志し、俳優の眼から「演出」という役割を見つめてみようと75才からの挑戦が始まった！又、おわりにこの稿を書く機会を創ってくれた北辰会報に感謝します。

ありがとう！

日展（書）に初入選して

29期　竹本（たけもと）　治男（はるお）（旧姓 酒井）

このたび第43回日展（第五科・書）に初入選することが出来ました。夢をあきらめずチャレンジしてきて本当に良かったと痛感しています。

昭和38年4月住友電工（伊丹）に養成工として入社、42年4月母校に入学、その当時から書道を続けてきて、最高の年となりました。何といっても「日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書」を志す者にとって日本の美の最高峰の展覧会と言われているからです。

35歳ぐらいから日展に出品し続け…かれこれ30年。今日まで続けてこられたのは、良き師匠・書道仲間・サラリーマン時代の先輩友人・恩師・学友や家族に恵まれ、人間味豊かな方々に支えられたからと感謝しています。

北宸Ⅲ「ゆうべの星」Ｐ263に書かせていただいております「書道を続けて」を今読み直し、心詰まるものがあります。私の理念でもある「好きなこと・自分に出来ること・人によろこんでもらえること」を忘れず続ける覚悟です。

お弟子にも恵まれ、住んでいる桜井市に3ヶ所・大阪に4ヶ所の書道教室を持ち頑張っています。特に桜井市での高齢福祉センターの書道教室（お年寄り10数名ですが）は有意義で最高齢90歳のお年よりも通っておられます。

10月27日（木）～28日（金）、「日展入選」イベントに東京に行ってきました。品川のプリンスホテル（飛天の間）での懇親パーティー・六本木の国立新美術館でのテープカット・展示鑑賞など忘れられない思い出です。

入選作品の前で

今回のこの感激を新たな出発点として更なる精進を重ねていきたいと思います。

今後ともよろしくご指導ご鞭撻をいただきますようお願いして私の好きな言葉を記してペンを置きます。

夢を持つかぎり
努力するかぎり
夢は遠くない

新井さんの微笑み

子供たちに　遺しておく言葉

12期　新井（あらい）　實（みのる）

九月が来ると私は、六十九歳になる。中国の詩人杜甫は「人生七十年古来稀」と詠んだが、その「古稀」もすぐそこまできたことになる。日本人の平均寿命は大きく伸びてきたが、年相応に体力が衰えてきた実感はあるけれど健康状態に特別変ったところも感じられないから近々死を迎えるということはないだろう。だから余計なんとか自分の言葉で話せるうちにあなたたちに遺しておきたいことを書き留めておきたい。

年を取るとくだらないことを考えるようになるものだが、私がもし死を迎えたときは「どうかお葬式などというようなことはしないでほしい」と頼んでおきたい。こんなことを書くと、それが世間の常識などからあなたたちに負担を掛けることになるかも分からない。でも是非そうして欲しい。

いわゆる世間の常識と言われているものには、案外不合理なことが慣わしとして行われていることが多い。お葬式にもそんなことを感じる人が段々増えてきて、葬儀や告別式でなく宗教抜きの「お別れの会」や家族だけの「密葬」で済ませる人のことをよく聞くようになった。

私が「お葬式をしないで欲しい」というのは、いわゆる世間一般で行われているようなものは何か空々しいと感じるからなのだ。死後どんな言葉を贈られようと、どんな評価をされようと、もはや私には分からない。分からないから私にとって意味のないことだと思う。

忙しい時間を割いて人々に集まってもらうことはあるまい。だから、できればごく少数の身内だけで「偲ぶ会」でもしてくれればいいと思う。

私は優れた人格の持ち主でもないし、顧みてあまり褒められた生ではなかったと思うことがたくさんある。あなたたちから見ても私のいろんな面が思い出せるだろう。それをあなたたちのこれからの人生の反面教師としてくれればと思う。

もう一つ頼んでおきたいことは、お墓に葬ることも、供養もいらないということだ。人の死が厳粛なものであることを私は否定しない。遺骨は、今まで生きていた人の体の一部である。粗末に扱えないというのは人の素朴な感情であろう。しかし、反面遺骨は物に帰ったものである。自然に帰しても粗末に扱ったとは考えられない。私の遺骨は、法律などの規制はあるだろうが、できれば私の好きだった山や海に撒いて欲しい。そしてそこを見るときに私を思い出して貰えたらこんな幸せな事はないと思う。

お寺が檀家に先祖の供養をさせるのは、「江戸幕府のとった切支丹禁止政策によって人は皆旦那寺に属する事を強要され、寺院はその過去帳を持つことによって檀家のすべてを握り、先祖の供養をさせた」という説をとる人がいる。つまり先祖の供養が寺院の営業政策に利用されたというのである。この真偽は知らない。

また、俗に「供養を怠ると先祖の祟りがある」と言う。一種の脅迫である。こんなことはどう考えても有り得ない。子供は可愛い筈である。その可愛い子供の幸せを希わずに「たたる」などという親がある筈もないし、本当の宗教家がそんなことを説く筈もない。

それとは別に私は、霊魂の存在そのものに疑問を持っている。死後の世界があるかどうか、帰ってきた人がいない以上証明しょうもないが、私は否定的である。人類の発生以来から今まで私たちの先祖の数は何千万、あるいは何億人にもなろう。そんな数の先祖の霊魂が私の周

りにいるとすれば、息苦しくて生きていけそうもないが、幸いそんな思いをしたことがない。繰り返すが私は霊魂の存在に否定的である。要は自分の心の中に先祖が住んでいるかどうか、生きている者の心の問題だと思う。だから、私にとって供養などは無用のものにして貰いたいと思う。ときどきあなたたちが会うこともあるだろう、そのとき思い出話でもして、棚卸しでもいい、先に書いたようにあなたたちの反面教師にでもしてくれれば、私にとってそれ以上のことはない。

＊編集部　日頃お世話になっている新井さんのエッセー集を入手し、北辰会報への転載許可を頂きました。その後、脳梗塞を発症され3月4日にご逝去されました。この会報をご仏前に捧げ新井さんに感謝とご冥福をお祈り致します。

同期会・同好会だより

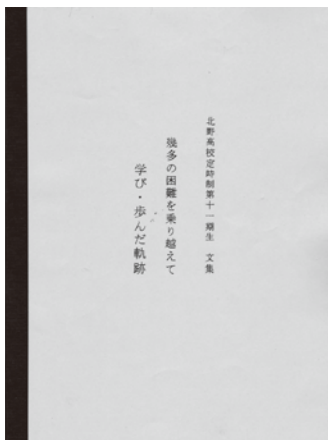
第11期同期会の現状

11期　幹事　安東（あんどう）　功雄（いさお）

第11期生の同期会は、従前は十三を中心とした周辺地で開催していたが、定時制課程が閉課程となった後は、場所を大阪駅前第1ビル11階に移して開催している。前回（2011年）は11月11日に、同期生12名が参集した。そこでは、自身の近況、時局評論等、同期会ならではの広い話題に接することができた。最後は、同期生の演じるマジックを楽しんだ。

また、同期会の開催案内に際しては、「1年に1度の同期生への便り」といった気持ちで1文をしたためて貰うことを要請している。前回は、28名から寄稿があり、そこには同期生自身の近況、忌憚のない時局評論、定時制在校時の懐かしい思い出等が記載されており、いずれも、心を惹き付けるものであった。それをワープロで打ち直して印刷し、欠席者を含めて配布することとしている。これによって、平素は疎遠になっているところではあるが、同期生同士の親近感が維持できているものと考えている。

2011年12月11日記



11期生文集

「北野13期歩こう会」より

世話人　谷村（たにむら）　隆一（たかいち）、岡部（おかべ）　節子（せつこ）

北野13期歩こう会　例会案内　平成24年度計画　　注：弁当・水筒各自持参・体調自己管理

	74回	75回	76回	77回	78回	79回	80回	81回	82回	83回
月　日	2月28日（火）	3月23日（金）	4月20日（金）	5月11日（金）	6月17日（金）	7月	9月12日（水）	10月19日（金）	11月16日（金）	12月7日
雨天予備日	2月29日（水）	3月30日（金）					9月13日（木）		11月19日（月）	
行き先	中山寺梅林他	高安山	奈良　当麻の里	善峰寺十輪寺	中之島周辺	未定	満願寺多田神社	神戸花鳥園	天竜寺より嵐山公園亀山地区	箕面
コース	中山寺梅林山麓の寺社めぐりあいあいパーク	近鉄服部川駅十三駅高安山信貴山駅	二上山万葉の森コース		中の島公園他を散策	後日担当者から連絡があります	阪急山本駅薬師寺満願寺多田神社	神戸花鳥園神戸空港散策	阪急嵐山駅渡月橋天竜寺竹林の小径亀山公園渡月橋	1年の反省会次年度の計画検討会
集合場所（改札前）	阪急宝塚線中山駅	近鉄信貴線服部川駅	近鉄南大阪線二上山駅	阪急京都線東向日駅	淀屋橋大阪市役所前		阪急宝塚線山本駅	ポートライナー三宮駅改札口前	阪急嵐山駅	
集合時刻	午前10時	午前10時	午前10時	午前10時	午前10時	午前10時	午前10時	午前10時	午前10時	
歩行距離	5.5キロ	8.8キロ	約6キロ	約6キロ			約8キロ		約5キロ	
担　当	谷村隆一 072-635-9661	蔵狭恒雄 072-633-6198	岡田和子 06-6623-5728	佐藤勉 072-624-6538	新本英二 079-563-0936	岡村昇 072-367-2339	谷村隆一 072-635-9661	新本英二 079-563-0936	蔵狭恒雄 072-633-6198	
備　考			近鉄阿倍野橋駅9時24分発準急橿原神宮前行き					花鳥園入園料￥1,000　身分証明証を持参して下さい（シニア-割引に必要）		

13期生の皆様の参加をお待ちしてます。

2012年度例会予定

2011年4月　琵琶湖疏水

2011年10月　仁徳天皇御陵

大阪リバーサイドに集い、水上遊覧～第17期生同窓会～

17期　水口（みずぐち）　健三（けんぞう）

絶好の行楽日和に恵まれた平成23年11月13日（日）午前9時30分大阪城公園駅に集合。大阪城港でアクアライナーに乗船、約40分間の遊覧、OAPにて下船。船内では、久し振りの出会いを楽しみ、ガイドの音声も聞き取れないほどの話の花ざかり。

12時から大阪リバーサイドホテルにて会食。仲義世話人の司会進行のもと、物故者の黙祷、古谷茂樹君の瑞宝双光章受章（消防活動の長年の功績により平成21年11月秋の叙勲）の披露。続いて出席者23名の近況報告、三味線、歌、詩吟、史跡めぐりの語り部など持ち前の十八番の披露あり、あっという間に3時間が過ぎた。最後に校歌斉唱、平成26年の再会を約し、千鳥足にて会場をあとにした。世話人の皆さん有難うございました。

なお、当同窓会を機に、北辰会幹事会報告と北辰会行事に対するご理解とご協力に感謝を申し上げました。

安く、楽しく、盛大に31名の集まり～18期同期会～

18期　三木（みき）　次郎（じろう）

今年の18期同期会は、2月11日（土）に梅田の居酒屋で開催、31人が参加しました。「安くて、楽しく、盛大に！」との世話人一同の期待通り、みんな大満足（？）のひとときでした。

近年、同期会は、「懐かしい十三で、毎年2月開催」、が恒例になっていました。昨年12月の世話人打ち合わせで「たまには趣向を変えてみては」と、Ａ君おなじみの梅田の居酒屋を下見。雰囲気も上々で、新会場は即決、本番のこの日を迎えました。

18期生は、早生まれの最年少でも今年73歳に。後期高齢者もぼちぼちいて「俺、胃がんやってん」「胸にニトロ張ってる」など、まずは、病気自慢の話に花が咲く。「どこも悪くない年寄は異常や」との結論に「そやそや」。現役で仕事している人、自治会や老人会の世話をしている人、今もスキー、ゴルフ、山登りを続けている人もいて、話題は尽きず、よく飲んで、よく食べて、みんな元気盛りの年寄り。「来年もここで」と、誓い合って散会となりました。

遠路仙台からも参加～20期同期会～

20期　宇野（うの）　京子（きょうこ）

2011年11月13日　前回から4年ぶりで、卒業50周年の同窓会を行いました。

佐野、山本両先生を初めとして、関東から4

人、名古屋から2人、仙台から1人など遠くからの参加者も含めて33名が十三に集まりました。

卒業後初めての顔ぶれもあり、在校中の懐かしい話、先生方にお世話になった話、又近況等々をにぎやかに語り合いました。

次は2014年に、また皆元気で集まろうということで散会しました。

池川さんからの便り
～21期幹事～

21期　池川（いけがわ）　修治（しゅうじ）

2009.12　朝貝さん、神戸新聞によると阪神震災15周年に神戸に竹ろうそくを送られていました。ふるさとで頑張っておられます。

2010.3　今仲さん、赤穂の地元新聞によると赤穂城のボランテイアガイドで地元の町おこしに参加されています

5回目の22期同期会
～二次会はお茶会～

22期　大槻（おおつき）　征功（ゆきのり）

平成23年10月23日に、22期同期会を十三の「ホテルプラザオーサカ」にて、奥村先生　涌井先生に御出席して頂き、19名で2時間楽しく且つ有意義に開催しました。その後、阪急十三駅近くの喫茶店で、全員約一時間、定時制ならではの、楽しかった事、辛かった事等、当時では、言えなかった事を、今なら笑って言えるとばかり、本当に心の底から、楽しく語り合い、3年後に、同窓会もしくは同好会（参加人数により名称変更）を約束して解散しました。

唯一残念だったのは、中沢先生が5月20日に他界され、川野先生が6月10日に、脳梗塞を再発し入院された事です。

中沢先生には御冥福を、川野先生には、少しでも早く完治される事を、お祈り致します。

↑涌井先生　↑奥村先生

皆、石川遼君や浅田真央さんでした
～2012年　25期同期会の報告～

世話人一同

2月19日、大阪地方は久しぶりに好天でした。

水原先生と横浜、小田原、輪島、名古屋からと合わせて29名の方々の集いになりました。

基本的には毎年の開催ですが前回は19名でした。今回何時も参加してくださる4名の方のご逝去があり参加者数の減少を世話人は心配していましたが盛り上がった3時間でした。

全員のスピーチがあり、感慨深かったのは皆様が色々と社会貢献などに取り組み、前向きに生活している発言が多くあったことです。身体の不調や泣き言はありませんでした。やはり青春時代、夜学で4年間学んだことはその後の人生

↑水原先生

に大きな財産を与えたという感想もありました。

皆、青春時代は石川遼君や浅田真央さんでした。

その後、母校訪問、お茶会、カラオケとそれぞれが2次会を楽しみました。

同期の絆を温めあった
～第3回26期同期会～

26期 岡田（おかだ） 美乃利（みのり）

11月6日（日）梅田で26期生の同期会を行いました。

これまでの同期会は

第1回はＨ11年（1999年5月） 参加者・同期生29人、恩師（山田・河内先生）

第2回はＨ20年（2008年11月）参加者・同期生44人、恩師（山田先生）

今回はＨ23年（2011年11月）参加者・同期生35人、恩師（山田先生）

初めての参加者も数名おられ「何十年ぶりだね、会えて嬉しいね」「久しぶり、元気だね」「私、来ようかどうしようか迷ったけど来たよ」など感嘆符付のあいさつなど、あちこちでの会話です。

世話人・小河原京子さん（旧姓・坂本）の司会で最初に、若くして先立たれた同期生や恩師を偲んで黙祷を奉げました。次に世話人の岡田美乃利が「今年は3.11という地震・津波に加え、原発事故という大震災があり、阪神大震災を経験されたみなさんは特別の思いがあったと思います。今日は、同期生という絆で結ばれた私達と、都合で欠席された同期生にも思いを寄せ、楽しみましょう」と開会のあいさつ。

続いて山田信也先生は「私、この同期会の案内を受けたとき、その日は何があっても参加する気持で、今日はそういう思いで参加しました。73歳になりましたが、見渡す限り皆さんと私は同い年の様ですと、ご自身の若さを猛アピール？今も森林ボランティア等、いろんなことをしています。絆という話がありましたが大いにそれを温め合おうではありませんか」とご挨拶を頂きました。

井口伴子さんから、Ｈ21年に亡くなられた故・河内国昭先生の絵画の遺作展の紹介がありました。（26期で開催協力させて頂きました）

ここで皆さんお待ちかねの、風呂信一さんによる元気のいい音頭で乾杯です。

飲み放題付の懇親会は大いに盛り上がりました。私はこういう懇親会は大好きです。

各テーブルでの懇親は賑やかそのものです。会話の中では「定時制課程はなくなったが、このような集まりはズーッと続け、お互い元気な姿を見せ合おうよ」などの会話。また、何人も集まってシャッターを切り、フラッシュの連続です。

途中から一人ひとりが近況などを報告。笑いあり、拍手ありでした。

最後に桑名耕治さんの指揮、梅谷武さんのハーモニカ伴奏で校歌「夕べの星」の合唱。能登・輪島から参加された宇羅恒雄さんの「次回も大いに楽しみましょう」のあいさつで閉会しました。

この後、20数名参加での2次会はカラオケBOXへ行き大いに喉を競い合いました。

みなさん、ご苦労様でした。

あれから43年、熊本から同期会を思う

27期 田上（たのうえ） 玲子（れいこ）（旧姓 山下）

同期生は皆、高校を必要として目的があって必死に勉強しようと入学されたと思うけど、私は高校の資格とか勉強したいとかと云う気持ちはなかったけれど、中学校の先生が1本のレールを引いて下さり、卒業式もしないで上阪してあ

れからどうにか4年間を終え卒業しました。後には本当に行ってよかったと誇りに思います。

その後40数年ご案内を頂いたり又、上村さんより「同期会においで、もう来れんかもしれんよ」と云われ、新幹線も通った事だしと思い切って、2011年6月、初めて同期会に参加させて頂きました。今迄その都度ご案内、お便り、電話、年賀状を頂き、企画・遂行される役を担って下さる方にお礼申し上げます。

懐かしの十三駅を降りて店を探して着いたら、羽柿さんが来ておられ、とっさには分かりませんでした。間をおいて思い出し、声をかけられて案内され上に上がると狭い所で、すぐ椅子を数えると32だったと思います。私は何百人もいて芋を洗う様でどさくさの内に終わるのかと思ったら少ないが、一人ひと言ずつ挨拶されて、慣れてない私も熊本のCMをとも思ったけど忘れてしまうありさま。隣が丁度同じ釜の飯を食ったＩ氏だったので又、懐かしく話もはずんだ（同じ釜の飯9人）。一人一人他のクラスの人とも言葉を交わさなかったのが後で残念だった。

私はコーラス部だったので顧問の釈先生、ピアノの寺本さん（生徒）又、平尾さん等もそうでした。帰りはよく夜の道を高らかに合唱して帰ったものでした。こちら熊本では毎年、年末のベートーベンの第九の大合唱に参加しています。

又、釈、山田、的場各先生方のご参加は本当にありがたいですね。それにしても若い、美しく年を重ねていらっしゃいます。私達が追い越してしまいます。1年の時は西野先生でした又、両部先生お元気でしょうか。楠森さんも亡くなられたとの事でびっくり信じられなくて小川さんに電話しました。毎年お年賀状を頂いており、その気配も見せず残念です。亡くなられた方々に合掌。

2時間と云う短い時間はあっという間ですが楽しかったです。この時しか学生時分には戻れないことを体験しました。

帰りは電車の中、皆さんの顔がちらちら又、帰って車を運転していてもちらちら。皆さんご家族共に幸せなひとだなあーって事思いながら、帰ってからは友に電話して同期会に行って来た様子を知らせました。「そうそう良かったね。」と同感してくれました。

皆様におかれましてはどうぞお体ご自愛下さい。又、友達と行けるよう努力致します。

10年振り、盛り上がりました
～37名の29期同期会～

29期　松田（まつだ）　秀樹（ひでき）

10月2日（日）天津閣での同窓会、成功裏に終わりました。同窓会開催に際しまして、北辰会会長からの心暖まるメッセージや事務局からもいろいろとサポートして頂きありがとうございました。

おかげで楽しく盛り上がった同窓会になりました。10年ぶりの同窓会は、すでに亡くなられた29期の仲間8名と東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福を祈って黙祷を捧げてからスタート。

ご出席頂いた上田先生・青木先生・山本先生の3名の恩師からのご挨拶と生徒に語りかけるような暖かいお言葉に、参加した37名の29期生全員が深い感銘を受けました。また体調不良で参加できなかった遠山先生からもメッセージを頂きました。

山本先生の乾杯の音頭で始まった会は高校時代の思い出話など一気に賑やかになり、それぞれが学生気分に戻ってしまいました。今回は10年ぶりどころか40年ぶりに会う仲間もかなりおられ、お互い還暦を過ぎているにもかかわらず、まるでタイムスリップしたかのように懐かしい話に目を輝かせていました。

会場正面には、全国レベルの実績を持つ書道

の大家、竹本大鶴さん自筆の「祝　北辰29期同窓会」の横断幕が飾られ、会に花を添えて頂きました。

3時間の深い交流会はあっという間に過ぎ去り、いつまでも元気に活躍され、再会できることを願って、元コーラス部の米谷優子さんの指揮で力強く校歌斉唱をして終了いたしました。

↑上田先生　↑青木先生　↑山本先生

65,66,67期　卓球部　懇親会

66期　木村（きむら）　一男（かずお）

5月15日(日)　北野高校定時制の元卓球部7人と村上先生　全員で八名でしたが卓球を全員で楽しみ、その後ささやかな懇親会を開きました

正午にJR塚本駅に全員集合して、野里卓球場で3時間余り相手を入れ替えながら、めいめいがわいわいがやがやおしゃべりの絶え間の無い時間をすごしました。

北野高校定時制の元卓球部時代も家庭的なクラブでしたが、この度の集りは元部員の家族も加わり元卓球部時代よりも、もっとファミリーな時間でした。

卓球の終わったあと近くのファミリーレストランで会食し、再会を約束してお開きにした、楽しい一日でした。

66期生の結婚お祝いのビデオ作成

66期　木村（きむら）　一男（かずお）

同期の女性数名が66期の人気者、森田奈緒美さんの結婚披露宴へ招待されました。

彼女の依頼で同期のビデオレターを作成することになり、連絡の取れる人、彼女の知り合いの人、レター作成の場所、時間に合う人と、厳しい条件の中で8人が集りました。卒業して4年、8人とも卒業前と変わりがないと思ったのですが、家庭を持って子供が出来た3人、男性ではスーパーマーケットの副支店長として頑張っている人など、全員が前向きに頑張っていました。

撮影の終わったあと、同期会をやりたいと声が上がり、浅井ちづさんが幹事と決まり近々に開催することが決まりました。

ビデオレター作成会が、同期会準備室と成り、盛り上がりました。

次回には66期の同期会の記事が書けること楽しみにしています。

↑木村さん

古城会長･直嶋前経産相･2期生も参加
～2011年東京北辰会～

12期　佐々木（ささき）　幸政（ゆきまさ）

平成23年（2011）6月25日（土）於・ホテルオークラ・2Fオークルームで、古城北辰会会長や26期生の直嶋前経産相を含む28名で平成23年度東京北辰会懇親会を開催しました。

当年は先輩方がお元気で、米寿・傘寿をお迎えになり、続く我々も喜寿、同窓の皆様も古希・還暦を迎えた目出度くも記念すべき年から、例年より盛大にすべく計画している時、3月11日、

未曾有の大地震・東日本大災害・津波による原発事故があり、延期も考えましたが、会員への勇気付けと、日本民族の結束と叡智を以て必ず復旧することの確認の為にも開催する事としました。

最年長で2期生の難波先輩もお元気なお姿を見せて戴き、出席者から1分間のスピーチを戴き、フランス料理にシャンソン歌手・坂上百合子、ピアノ演奏・中山真奈美の豪華な懇親会が出来ました。

“東京北辰会だより”も4号を発行、5号から新会員（会員71名特別会員8名計79名）より年会費・たより費の合計2千円/年の賛助を戴き平成24年2月に発行しました。引き続いて発行を予定しております。

平成24年スカイツリー完成に合わせ、平成24年秋～平成25年春（2012～2013）懇親会開催を予定しております。

↑松尾東京北辰会会長　↑直嶋前経産相
↑古城北辰会会長

目標30年～陸上部OB会～

30期　塗家（ぬりや）　栄子（えいこ）

当初10人でスタートした陸上部OB会も今年の6月で20年目を迎えます。

ホテルでの入浴付昼食会、嵐山のトロッコ列車、日帰りバスツアー、先生宅での昼食会等々愉しんできました

昨年も2回目になる「妙見山クッキングセンター」でのバーベキュ（写真）

↑塗家さん

28期の高田・佐藤先輩、29期の荒井・石賀先輩、30期の伊東・赤松・私（塗家）の7人。生憎、顧問の遠藤先生は不参加でしたが、美味しいお肉に舌鼓、笑顔満開。24期の福井、25期の松本、26期の城内各先輩諸氏の参加が少ないのが残念ですが…。

「もう止めよ、今回で最後にしよ」と云いながらも20年続けて来れた事は、永久幹事の赤松共々誇りに感じています。

何せ一番若いのが30期なのでいつ迄継続出来るか不安ですが、25年・30年と続けられたら嬉しい限りです。今年も又、秋頃の開催に向け、あれこれ思案の真最中です。

やはり登山の方が!「松本城、上高地散策」～第16回途上人KITANO～

世話人　梅谷（うめたに）　武（たけし）

今回も天候に恵まれませんでしたが、お手上げとまではいかない天気でした。

初参加の岡田さん奥様から「みんな良い人ばかりで疲れを感じさせない、楽しい旅行だった」との感想を頂き喜んでいます。

猪之良さんの3年ぶりの参加がありましたが参加人数は14名と会費の心配をした今回でした。

それでも皆さん、不平も言わずそれぞれ楽しんで頂いた2日間でした。

何時ものように梅田出発と同時に宴会が始まりました。常連の藤本ご夫妻のお顔がないのは寂しいものですがそれは猪之良さんの参加で埋

め合わせ出来たでしょう。

米原で宇羅さん、岡田ご夫妻合流。

午後は皆さんの希望で「松本城」をゆっくり散策いたしました。

「上高地アルペンホテル」は小奇麗で食事、風呂も楽しませて頂きました。

翌朝は曇り空、梅谷さんの植物解説、兼田さんの補足説明とワイワイ喋りながらの散策。途中多くの猿に出会いました。まるで箕面公園にいるようでした。尾瀬と違い河童橋周辺は俗化されています。

天気が良ければ又違った受け止めができたでしょう。

皆さん、多少満足感を欠いた「上高地」だったのではないでしょうか。

次回は木曽駒ヶ岳方面を計画しています。

↑
梅谷さん

楽しかったなぁ雪中登山会
～第4回金剛登山会～

26期　桑名（くわな）　幸治（こうじ）

昨年の樹氷の感動をもう一度と1月9日（祝日）、二回目の金剛雪中登山を決行。

参加者は健脚万年青年（山田先生）、25期（斎藤陽子さん、藤本恒子さん）

26期（梅谷武くん、兼田吉治くん、桑名）の6名。と藤本パパさんの総勢7名。

いつものように登山口で山々の神仏に安全祈願のご挨拶に「ホラ貝一発」全員アイゼン装着、早速「愛染かつら着けましょ」とか、しょーもないダジャレを発する者がいて、さっそく全員滑ってしまいました。

山田先生　桑名さん

もくもくと登ること約一時間半、残念ながら暖かくて樹氷はなかったけど一面雪景色で「サイコー」でした。梅谷くんの般若心経で金剛葛城神社にお参りをすませて、ビールで乾杯、カップラーメンのあとの熱燗はうまかったなー。

下りでは俄然元気な藤本パパ「雪中下山は得意や」とかわけのわからん事をわいわいがやがや、ホラ貝挨拶、ハーモニカ演奏等、にぎやかな下山でした。

河内長野の「京都王将」で反省会、山田先生の「王将は安くて旨い」のとおりで、ここでも全員盛り上がりました。

次回は5月15日（火）河内長野駅8時半集合で春の第5回金剛会（山草花観察会）を行いますので皆さんご参加下さい。弁当（飲み物）持参、ルーペ（虫眼鏡）は必携。

秋の京都満喫しました
～北辰ファミリー･ハイク☆初参加の記～

27期　浅野（あさの）　千栄（ちえ）（旧姓 木村）

平成23年11月23日（祝）

山田先生引率の元、総勢11名が紅葉の京都・高雄～清滝～嵐山へ。

当日は薄曇りでしたが、歩くには最適な（私的に）日和でした。

先生初め、皆さんとご一緒の、紅葉を愛でながらの山歩きはとても楽しいものでした。

きっかけは、同年・初夏に催された同期会

（27期）がご縁での嬉しいお誘いでした。

「北辰ファミリー」が何たるかも知らず、卒業から数十年も経ての初参加でした。

知らない方や、どうも話が噛み合わない部分が有って、不思議に思っていましたら、山田先生と皆さんが、長きに渡り、国内外のいろんな所に行かれているとのこと。

又、その時々の思い出話に耳を傾けながら…やっと気付いたのでした。

「北辰ファミリー」は同期だけの会ではないことを。

卒業しても尚変わらず、山田先生のお人柄や生き方への信望の厚さ、そして、「北辰ファミリー」の絆の深さに感銘を受けたのでした。

カメラマンの足立さんが、素晴らしい写真を懐かしい音楽とともに、DVDにして下さいました。最高の思い出をありがとうございました。

大切にします。

山田先生は元より、お声を掛けて下さった羽柿さん、そしてご一緒して下さった皆様。素晴らしい思い出をありがとうございました。

↑浅野さん　↑山田先生

事務局からの報告

一．人事

１．役員

①副会長

辞任　19期　菅原　武之さん（加療中）

新任　18期　岡田　多門さん

②会計監査

辞任　７期　得本　嘉三さん

新任　17期　水口　健三さん

２．幹事

辞任　13期　吉田　一枝さん

19期　菅原　武之さん

62期　植木　秀男さん

（2011.12　死去のため）

新任　19期　山本　美徳さん

19期　平子　浩一さん

30期　谷垣　雅春さん

３．事務局

変更ありません。

４．学校

校　長　楠野（くすの）　宣孝（のぶたか）氏（2011年4月赴任）

教　頭　竹内（たけうち）　祥浩（よしひろ）氏

事務長　清水（しみず）　正治（まさひろ）氏（2012年1月現在）

二．会計報告（別項会計報告参照してください）

１．収入合計　339万8722円、

支出合計　145万8414円

繰越金（郵便貯金）210万7840円

２．賛助金は5名さまから6万5千円戴きました。

３．書物売上げは8名の方から2万5千円ありました。

４．大きな支出、組織活動費64万円（震災義捐金20万円含む）、会報発行費65万円

５．2012年の大きな支出予定、会報発行費70万円、組織活動費36万円、年間予算概算135万円

６．2013年への繰越金予定は75万円です。

三．賛助金をお願い致します

今年は2014年総会を見定めた賛助金運動になります。

皆様の絶大なご支援お願い致します。

四．閉課程記念ＤＶＤ作成と購入予約について

2014年総会を目途に作成が決まっていましたが１年前倒し致します。

今回、購入予約を受け付け、2013年春、会報19号に同封発送致します。

１．事務局の方針

イ．写真を中心とし、映像と音楽で構成する。

ロ．北辰会文集3部作を引継ぎ、映像として北野高校定時制の姿を残し、会員皆様の脳裏に残る作品に仕上げる。

ハ．北野高校定時制の歴史が残せるような作品にする。

ニ．その1部分を母校のホームページに残せるように編集する。

ホ．扱い易く、価格は1,000円とします。

ヘ．DVDは2枚組としDVD本体とケースは印刷仕上げとする。

２．DVD概要（案）

【タイトル】　北野高校定時制72年と北辰会

【サブタイトル】　燦然と輝く「希望の星」

【オープニング】　定時制開設から閉課程へ

【１部　北野高校定時制の歩み】

1章　思い出の校舎

2章　平成新校舎

3章　北辰記念室

4章　記念行事の思い出

5章　懐しい恩師（思い出の先生）

【２部　北辰会と仲間達】

1章　北辰会の歩み

2章　同期の仲間

3章　同好会の仲間

３．予約販売を貼付の郵便振替で受付けています

五．同期会、同好会開催状況と予定（事務局把握分）

11期　11月11日　大阪駅前ビル11階で12名の参加で同期会開催。同期会は毎年11月開催しています。同期会会報も発行しています。

13期　歩こう会年間10回予定、今年は83回になります。

参加者は毎回８～10名位、参加者は13期幹事さんか事務局まで

17期　11月13日、23名が大阪リバーサイドホテルで開催。次回は26年を予定。

18期　例年2月に同期会開催しています。今年は2月11日（土）31名の参加がありました。

20期　11月13日、4年ぶり、50周年を記念して佐野、山本両先生を初めとして、関東4人、名古屋2人、仙台1人と遠くからの参加者も含めて33名が十三に集まりました。

22期　10月23日に奥村、酒井先生も参加され19名で開催しました。

24期　同期会は10月14日（日）　高槻森林センターで開催します。

25期　2月19日水原先生を含む29名の参加で同期会開催。横浜、小田原から参加がありました。

近況報告集NO10号を発行し通信費を頂きました。同期会は毎年開催予定です。

26期　2011年11月6日　山田先生を含め36名の参加、熊本、富山、石川、香川県からの参加がありました。2次会のカラオケも盛り上がりました。

27期　釈、的場、山田3先生を含む27名で開催しました。

29期　10年振りの同期会を10月2日、山本、上田、青木3先生を含む40名の参加がありました。竹本大鶴さんが書道で日展に入選されました。

30期　今年開催いたします。

66期代OB会

2011年5月15日村上先生も参加され元卓球部7名で卓球と食事を楽しみました。

66期生の結婚を機会に同期生8名が集まりビデオレターを作成しました。この機会に同期会を開催しようと話が決りました。

東京北辰会

2011年6月25日、28名で古城会長、直島前経産相も参加してホテルオークラで懇親会を開催、東京北辰会便り5号も発行しました。2013年にはスカイツリー完成に合わせ懇親会予定。

途上人KITANO

7月13名で上高地、松本城を散策、12月20名で忘年会、2012年7月26日（木）木曽駒ケ岳を予定。

途上人KITANO

金剛登山会　1月9日　4回例会、雪中登山を山田先生ら7名で楽しく開催しました。今年は5月15日（火）5回登山会（山草花観察会）予定。

北辰ファミリー

11月26日　山田先生を含む11名で秋の京都嵐山散策。ビデオも出来ました。

訃報　お悔やみ申し上げます

恩師　中澤　貞岑先生（2011.5）

62期幹事　植木　秀男さん（2011.12）

六．2012年活動方針

１．賛助金運動の成功

２．校舎、校歌、先生やクラス写真などが入ったDVDを作成し、1000円で購入予約を受付けます。

３．幹事の3名体制

４．同期会、同好会の開催

５．役員、事務局による、同期会、同好会へのサポートを強める。

６．各種集会で手持ち書籍の販売

７．定時制、北辰会ホームページの充実、及びメール会員を把握し拡充に努める。

８．母校関係者との協力関係を深めます。

2011年賛助金のご芳名

△藤枝元校長夫人

5万円の賛助金　2年連続、賛助金の送金がありました。

△21期　Mさん

1万円の匿名賛助金　Mさんは匿名を条件に振込みがありました。

△その他の賛助者名

25期　宇治さん

21期　中村さん

33期　北原さん

嬉しく感謝を込め大事に活用させて頂きます。

編集後記

18号では「皆様からの便り」の他に「この人あり」のコーナーで、3名の方に現在ご活躍の報告をお願い致しました。それぞれの方が長く粘り強く、ご本人の能力を磨き社会に貢献されている姿を見て下さい。

新たなコーナーとして、12期新井實さんのエッセー集から「新井さんの微笑み」を設けました。

皆様のご支援で北辰会賛助金運動の目標が達成され、この会報発行が存続されることを祈っています。北辰ＤＶＤも奮って購入予約をお願いします。

2012年４月吉日

北辰会会長　古城具祐
北辰会事務局長　前田直人

北辰会賛助金（運営資金カンパ）と「閉課程記念北辰DVD」購入予約のお願い

北辰会の活動は、会員皆様からの賛助金を戴いて運営しております。

年会費を徴収せず、**総会時と総会の中間年が賛助金対象年**となっております。

皆様からの賛助金のお陰で、会報の全員配付、5年毎に開催される総会の準備、常任幹事会など各種会合の開催、文集の発行等々の北辰会活動が順調に運営されております。

2014年には北辰会総会を予定しています。

また、母校定時制閉課程記念「北野高校定時制72年と北辰会」のタイトルでDVDを製作中です。

皆様からの賛助金は、会報でもご報告しております通り、2009年には総額268万円程戴いています。

北辰会の通年の**１年間の支出は約130万円位**です。この内、主な支出は**70万円の会報発行費**です。3,200人の会員皆様へ送付されています。北辰会としても今後のことも考慮し経費節減に努めています。

①2013年、2014年の2年間　**活動費　260万円**

賛助金　260万円　目標としています

年金生活の上、医療費等々で皆様の生活も厳しいことと推察しております。

母校閉課程後の北辰会を思う時、会員相互の信頼と絆を一層堅固なものにして、常に活力、安らぎを与えてくれる北辰会を維持するためにも、この目標はぜひ実現し、出来る限り北辰会を元気に存続させたいと思っております。役員一同誠心誠意努力して参ります。皆様の絶大なるご支援をお願いいたします。

つきましては目安として**3,000円**以上での賛助金をお願い致します。

＊添付の郵便振替用紙をご利用下さい。（振込み料は不要です）

＊出来うる限り**５月末日までに振込み**お願い致します。

閉課程記念「北辰DVD」購入予約のお願い

文集３部作に引継ぎ、映像で皆様に感動と躍動を呼び起すDVD作品が出来上がるものと確信しています。多数、皆様の購入をお願い致します。

予約価格　**1,000円**（送料込み）

2枚組120分予定

2013年春、北辰会報19号に同封発送します。

ケース表　ケース裏　DVD本体